

東建パブリニューズ

平成28年6月22日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成28年6月13日 週刊住宅 P. 12

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



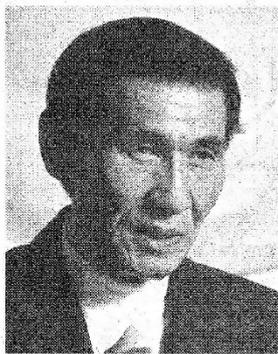
1階をデイサービスフロア、2〜4階を要介護者向け住居フロア、5〜8階を健康な高齢者向けフロアとする

東建コーポレーションはサービス付き高齢者向け住宅事業を始める。自社で土地を取得して建設、運営するものと土地オーナーに土地活用事業として提案する2つで行う。左右田稔社長は「大学病院の近くで建設・運営して救急医療対応や定期診断を行うなど、入居者が安心して暮らせる施設をつくりたい」と話す。

東建コーポ 自社開発と土地活用提案で

サ高住事業に参入

3大都市で 大学病院と医療連携も



200億円を新規事業に投入すると話す左右田社長

2015年11月にサービス付き高齢者向け住宅商品「シニアウィレッジ」写真を発売した。1階をデイサービスフロア、2〜4階を要介護者向け住居フロア、5〜8階を健康な高齢者向けフロアとする。健康な高齢者が要介護などになった場合、要介護フロアに住み替えることができる。土地オーナーには介護事業者をセレクトにして提案する。東京と名古屋、大阪で専門部署を設けて販売する理由は

東建コーポレーションは新規事業を相次ぎ立ち上げていく。新規事業戦略を新設してサ高住事業のほか、高級賃貸マンション事業などに着手する。左右田社長に各事業について聞いた。

左右田稔社長に新規事業を聞く

マンション、海外など計画

「8階建てで1棟当たり50戸程度の大型物件になるため、容積率など立地を選ぶ必要がある。引き合いは多いが、現在契約書の最終確認をしており終わりしたい本格販売を久手市で初弾を考える。左右田稔社長はその後近隣の大学病院隣りに計画する。立地については都心で便利かつ自然が豊かで景観の良いところ、大学病院の近くで医療連携できる土地がいいとする。看護師寮を建設した縁で付き合いのある大学病院があるという。

「私は団塊世代で、友人の多くが老人ホームに入っており高齢者の住生活が気になっていた。そこで昨年、高齢者が健康に暮らせるような仕掛けをしたタイムシェア物件を三重多度津に開設した。次のステップとしてサ高住を考えた。」「もちろん少子化が進み人口が減っていることも理由だ。賃貸住宅一本では生き残ることは難しい。収益源拡大を考えたとき、増え続ける高齢者に着目した。爆発的に拡大しようとは思わないが、ある程度の規模にし地を計画する。」「都心型分譲マンションやリゾート、海外拠点開設などを考えている。新規事業については200億円を限度に投資する」